

おいしさと健康



CSR REPORT 2021 (ダイジェスト版)

Glicoグループ

「おいしさと健康」の価値を もっと多くの人に、そして世界に

Glicoグループは、創業者・江崎利一の「食品を通じて国民の体位向上に貢献したい」という想いを受け継ぎ、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として、創意工夫を重ねてまいりました。

今、おいしさの感動、健康の喜び、そして生きることの輝きを世界中に広げることが、社会にとってますます大きな価値を持つようになっていきます。

私たちは、これからも世界でこの使命を果たし続けていくために、時代の要請や期待に応え、新たな価値の創造にチャレンジし、社会とともに発展してまいります。

Contents

- 1-2 **プロローグ／目次／編集方針**
- 3-4 **社長メッセージ**
- 5-6 **特集**
事業を通じて社会に貢献するために、
今、Glicoグループがすべきことは何か
- 7-8 **Glicoグループ環境ビジョン2050**

地球とともに

- 9 Glicoグループ環境方針
- 9-10 気候変動への取り組み
- 11 商品・サービスにおける環境負荷低減
食品ロス削減に向けて
- 12 資源の有効活用

社会とともに

- 13-14 品質保証
- 15-16 お客様満足のために
- 17-18 ダイバーシティ&インクルージョン推進
- 19 働きやすい職場づくり
- 20 人権の尊重
- 21-22 サプライチェーンマネジメント
- 23-24 地域貢献

事業活動の基盤

- 25 コーポレート・ガバナンス
- 26 コンプライアンス
- 27-28 健康経営
- 29-30 **会社概要等**

編集方針

『Glicoグループ CSR REPORT 2021 (ダイジェスト版)』は、ステークホルダーの皆さまに、GlicoグループのCSRをわかりやすく報告することを目的に、より重要で特徴的な取り組みを中心にまとめています。

報告対象組織

江崎グリコ株式会社ならびにGlicoグループ各社

報告対象期間

2020年度(2020年1月～2020年12月)
※一部2019年度以前の取り組みや2021年1月以降の活動も含んでいます。

発行月

2021年3月
※情報については、発行時点での最新のものを掲載しています。
※記載されている会社名、商品名等は、各社の登録商標または商標です。

発行

江崎グリコ株式会社 経営企画本部 コーポレートコミュニケーション部

お問い合わせ先

グリコお客様センター：☎0120-917-111 ※平日のみ

詳細版のご案内

GlicoグループのCSRの取り組みについて、本書の他に、WEBサイトやPDFでもご紹介しています。

www.glico.com/jp/csr/



“事業を通じて社会に貢献する” 企業であり続けたい

この度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により亡くなられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、罹患された方々とそのご家族の皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、医療機関や行政機関をはじめ、世界ならびに日本各地で感染拡大防止に向けご尽力されている皆さまに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

COVID-19の感染拡大により、人々の価値観や生活も大きく変わりました。健康への意識が高まり、健康な体をつくる食事の大切さについても、再認識されたと考えています。Glicoグループは、現在、菓子、冷菓、乳製品や加工食品等の領域で事業を展開し、乳幼児の成長、お客様の健康をサポートする商品の拡充や健康機能を持つ食品素材の研究・開発等にも力を入れており、お客様の日々の生活の中でおいしく、健康維持・向上に役

立つ日常必需品の提供に努めています。これらの活動の原点は、Glicoグループの創業の精神にあります。

創業者・江崎利一は、かねて事業を通じて社会に貢献したいと考えていました。そのような中、偶然にも牡蠣に含まれるグリコーゲンに出会い、創意工夫を重ね、人々の栄養状態が不十分であった時代に、栄養菓子グリコを創製しました。

この想いを反映し、創業者はその信念を、企業理念として「食品による国民の体位向上に貢献する」と表現しました。時代とともに、この理念は表現を「おいしさと健康」と変えましたが、創業者から受け継いできた「食品事業を通じて社会に貢献する」という精神は、今もこれからも変わることはありません。この企業理念を実現するためには、

変わりゆく時代の要請や期待に応え続けていくことが必要であり、そのための活動をCSRと捉えています。

現在、世界には、気候変動や人権課題等、さまざまな課題が存在しています。これらの課題解決に向けて、Glicoグループの強みを生かし、積極的に取り組んでいく必要があると考えています。私たちはこれからも、積極果敢に創意工夫を重ねて価値を創造し、「食品事業を通じて社会に貢献する」会社であり続けることを目指します。今後ともより一層のご支援をたまわりますよう、お願い申し上げます。

2021年3月
江崎グリコ株式会社
代表取締役社長

江崎勝久



事業を通じて社会に貢献するために、 今、Glicoグループがすべきことは何か

Glicoグループの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

Glicoグループは、企業理念「おいしさと健康」を実現し、事業を通じて社会に貢献し続けていくために、取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を明確にした上での活動が重要であると考えています。

マテリアリティの特定にあたり、「ステークホルダーの要請・期待」と「事業への影響度」という2つの軸の観点でGlicoグループが注力すべき取り組みのフレームワークを整理しました。

2019年6月に、消費者、取引先、従業員、株主・投資家等のステークホルダーの声を踏まえ、調査・分析を行った上で、マテリアリティの特定を実施しました。

また、2020年7月には、さらに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指して、グローバルにおける社会課題の視点を強化し、社外の有識者からもご意見をいただきながら、マテリアリティの見直しを行いました。

重要な活動にリソースを集中し、戦略的に活動を推進することで、事業を通じて人々の健康に寄与するとともに、さまざまな社会課題の解決に取り組み、社会課題解決を通じた持続的な事業成長を目指してまいります。

関連する主なSDGs



マテリアリティを特定する際には、国連グローバル・コンパクトの10原則、持続可能な開発目標(SDGs)、ISO26000の他、GRIスタンダードやSASB等の示す非財務情報開示基準、FTSEやMSCIをはじめとするESG評価機関の評価項目等を参照しています。

マテリアリティマッピング

- 製品安全・消費者・コミュニティ課題
- 労働・人権課題
- 環境・社会共通課題
- 環境課題
- コンプライアンス・ガバナンス課題



今後は、マテリアリティの特定結果をもとに、中長期における目標・KPIを策定してまいります。なお、時代の変化や今後の事業活動を踏まえ、2024年にマテリアリティの見直しを検討する予定です。



Glicoグループ環境ビジョン2050

資源循環社会の実現に向けて、企業市民としての責務を果たします



2021年3月、Glicoグループは重要課題に基づいた4つの分野について、2050年をゴールとした中長期ビジョンおよびKPIを策定しました。豊かな地球環境を未来に繋いでいくため、活動を推進していきます。

	2030年度目標	2050年度目標	主な取り組み
1	<p>7 気候変動への対応 13 気候変動に 関係する資源の 有効な活用</p> <p>CO₂削減量 -30%</p> <p>代替フロン R22冷媒 撤廃</p>	<p>-100% 数値はいずれも対2013年比</p> <p>自然冷媒 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 製造工場における取り組み 持続可能な物流体制の構築 <p>▶ P.9-10</p>
2	<p>6 安全な水とトイレ を世界中に</p> <p>-10%原単位 (使用水t/生産重量t)</p>	<p>-20%原単位 +水質汚染ゼロ化 数値はいずれも対2013年比</p>	<ul style="list-style-type: none"> 排水処理技術の向上 水の使用量削減 <p>▶ P.12</p>
3	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>14 海の豊かさ を守ろう</p> <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> <p>1WAYプラスチック -25% (2024年度目標) プラスチック リサイクル可能素材(リニア) 100% 紙 100%</p>	<p>リサイクル原料 (サーキュラー) 100% 森林認証紙 100% 数値はいずれも対2017年比</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境対応型包材の導入 <p>▶ P.11</p>
4	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>-95%</p>	<p>95% 数値はいずれも対2015年比</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産者の余剰品を活用した商品開発 <p>▶ P.11</p>



地球とともに

豊かな地球環境を未来に繋いでいくために企業活動を推進します。

Glicoグループ環境方針

環境への取り組みに関するGlicoグループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため、環境方針を定めています。お客様や取引先をはじめとするステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

「Glicoグループ環境方針」はこちらからご覧いただけます。



気候変動への取り組み

関連する重要課題(マテリアリティ)

気候変動の緩和と適応

企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量を削減しています。また、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネタイプへの切り替えを進めています。

■ 製造工場における取り組み

● 神戸工場

神戸工場では、2020年2月にコージェネレーションシステムを更新しました。更新前に比べ年間約960tのCO₂削減(神戸工場の総排出量の約4%)に貢献しています。



神戸工場のコージェネレーションシステム

● 那須工場・茨城工場

那須工場と茨城工場では、2021年2月より、従来のA重油から液化天然ガスに燃料転換したボイラーに更新しました。年間約1,370tのCO₂削減に繋がる見込みです。



液化天然ガスに燃料転換したボイラー

■ VMIセンター導入による、持続可能な物流体制の構築

サプライチェーンの環境社会配慮を重要課題の一つと捉え、食品製造に必要な原料をサプライヤー各社と共同で一括管理する新たな物流体制を構築(VMI※センター導入による調達物流の最適化)し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

サプライヤーから食品製造に必要な原料を大口補充し、各工場へ同時配送することで、高積載率化を実現。トラックの運行回数やサプライヤーの納入回数を削減することで、CO₂排

出量を削減しているほか、物流業務における生産性向上やドライバーの労働環境改善にも繋げています。

※VMI=Vendor Managed Inventory

新たな物流体制構築による効果(前年比)

CO₂削減量 517.6t-CO₂/年*

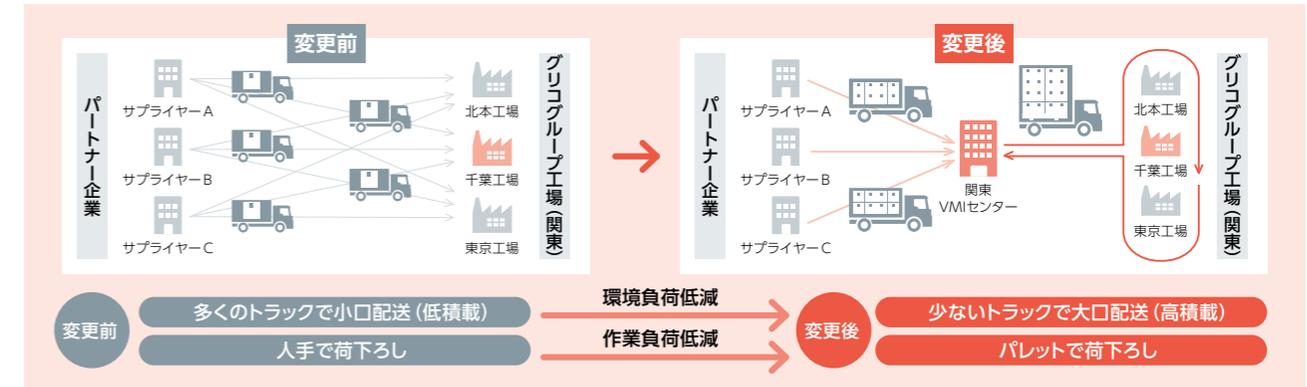
トラック荷受け台数 6,384台/年

75%削減

34%削減

*サプライヤー各社から収集した2019~2020年の実績を年換算。

〈取り組みの概要図〉



■ 「令和2年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において「経済産業大臣表彰」を受賞

VMIセンター導入による調達物流最適化の取り組みは、「自動車や小売業界で広く運用されているVMIを、食品製造業界でも取り入れ、Glicoと物流に携わる方々が連携して持続可能な物流モデルの構築に取り組み、調達物流の最適化に繋がった」点が評価され、「令和2年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において「経済産業大臣表彰」を取引先の皆さまとともに受賞しました。社会課題が複雑化し、1社だけでの取り組みでは解決が難しくなる中、今後も取引先との協働による課題解決に取り組んでいきます。

気候変動への取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。



商品・サービスにおける環境負荷低減

関連する重要課題 (マテリアリティ)

資源循環と廃棄物削減

■ 環境対応型包材の導入

Glicoグループでは、石油系樹脂を原料としたストローから、植物由来原料を5%配合したストローに変更する等、環境対応型包材の導入を進めています。

2020年度実績 (植物由来原料を5%配合したストローの導入率)

93.5%



植物由来原料を5%配合したストローに変更
※ 2021年2月時点でのパッケージです。



商品・サービスにおける環境負荷低減に向けた取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

食品ロス削減に向けて

関連する重要課題 (マテリアリティ)

資源循環と廃棄物削減

■ 中止になったいちご狩りの余剰いちごを使用した商品を発売

江崎グリコは、包括連携協定を締結している大阪府より、いちご狩り中止により余剰となってしまういちごの活用について相談を受け、消費されなかったいちごを使用した「カプリコミニ大袋<いちご狩り>」を開発。2020年12月より近畿エリアおよびグリコダイレクトショップにて数量限定で発売し、生産者の食品ロス削減に貢献しました。



いちご畑がデザインされた商品トレーにカプリコミニの内袋を立てることで、ご自宅でもいちご狩り気分が楽しめる特別仕様。



地元大阪のいちごを応援するため、大阪府在住の小学生が「こども記者」となり、和泉市の辻宏康市長や、いちご農園の生産者に対してオンラインインタビューを実施。取材内容をもとに、手書きの「こどもカプ株式会社新聞」を作成しました。



食品ロス削減に向けての取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

資源の有効活用

関連する重要課題 (マテリアリティ)

水資源の管理

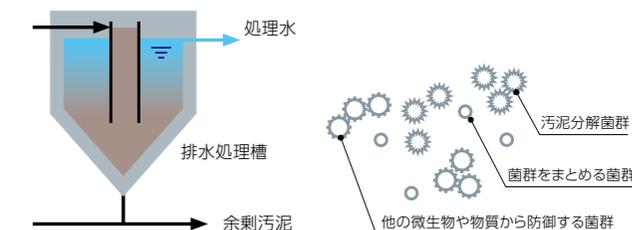
資源循環と廃棄物削減

■ 水資源の管理と資源循環

Glicoグループでは、一部の工場において、排水を冷凍設備の冷却に再利用する等、水資源の使用量削減に取り組んでいます。

● 排水処理技術の向上

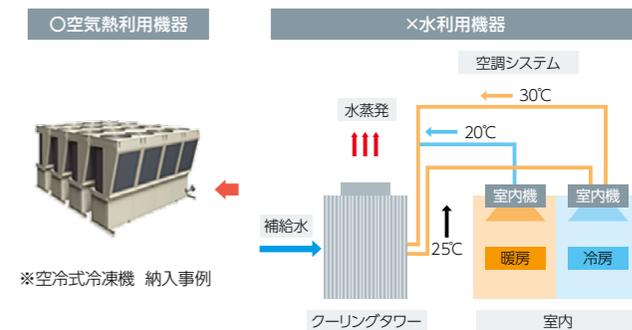
工場が発生した污水は各工場の排水処理場で放流基準値まで浄化し放流しています。工場では好気性微生物を利用した活性汚泥法を用いて水中の有機物を処理しているため、余剰汚泥が産業廃棄物として発生します(約3,000t/年)。2020年度より、高度な水処理技術を研究し導入することで、排水処理時の産業廃棄物である汚泥の発生抑制および排水処理能力向上に繋げています。なお、2021年度には各工場への展開を予定しています。



● 水の使用量削減

水による冷却を必要とするシステムを搭載した空調機器は、クーリングタワーと呼ばれる設備で気化熱を利用し熱交換を行うため、供給した水が蒸発してしまいます。菓子工場では、上水使用量の約半分がクーリングタワーの補給水です。

そこで2020年度より、工場での空調機器の選定時には、水による冷却を必要としない「高効率空冷式冷凍機」の採用を推奨し、設備投資計画での老朽化更新や新設時には空冷式を積極採用しています。



※空冷式冷凍機 納入事例



資源の有効活用の取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

社会とともに

事業を通じて、笑顔あふれる社会の実現に貢献します。



品質保証

関連する重要課題 (マテリアリティ)

安全・安心な商品・サービスの提供

Glicoグループの品質保証をグローバルレベルに引き上げ、「Glicoグループ品質方針」を実現するために、まずは「全社員で品質を守り、高める」ための「品質文化」のさらなる醸成と、「安全・安心を強化する」ための「品質マネジメント (品質保証、食品安全、コンプライアンス)」の継続的な改善に、全社を挙げて取り組んでいます。

■ バリューチェーンを通じた品質価値創造に向けて

2020年9月、顧客満足度向上に関する経営方針を明確化するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善を約束するものとして、「Glicoグループ品質方針」を制定しました。



「Glicoグループ品質方針」はこちらをご覧ください。

新品質保証の下「Glicoグループ品質方針」をバリューチェーンを通じた具体的な活動に落とし込み、2019年度から2021年度までの3年間で品質価値創造の目標を達成できるように、年度スコープを決めて活動を行っています。

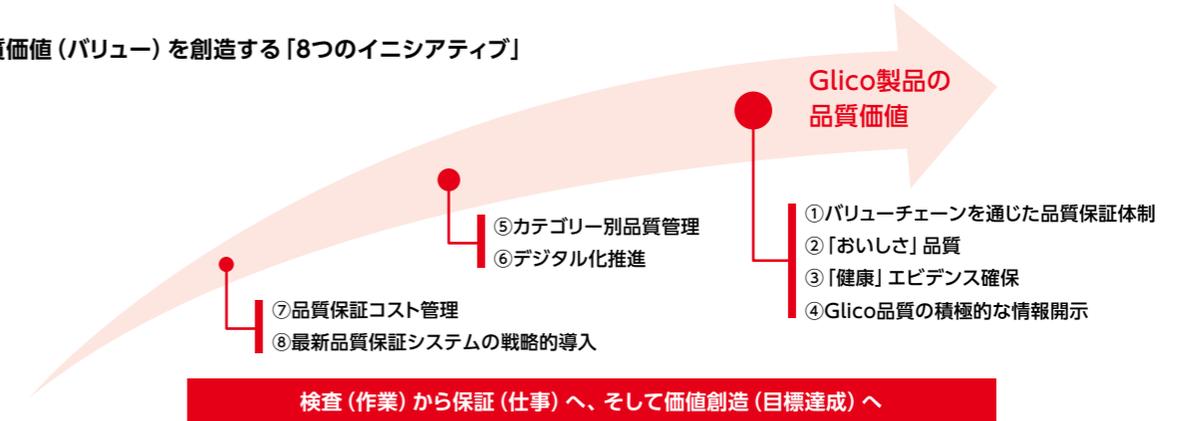
これらの取り組みにより、品質保証を品質価値 (バリュー) に引き上げ、Glico製品の市場競争力の強化を目指しています。

● 新品質保証体制 品質バリューチェーン&品質ビルディングブロック

	品質総括責任者					
	品質保証部 カテゴリー品質グループ					
説明責任	冷蔵/チルド/アイクレオチーム		菓子チーム		食品チーム	
実行責任	設計品質	製造品質	調達品質	流通品質	鮮度品質	顧客満足
	マーケティング部 商品技術開発研究所	製造部 グリコマニファクチャリングジャパン	グループ調達部 商品技術開発研究所	ロジスティクス部 セールス本部	需給計画部 ロジスティクス部 セールス本部	グリコお客様センター

原料から製品がお客様に届くまでのバリューチェーンを通じた品質価値の向上

● 品質価値 (バリュー) を創造する「8つのイニシアティブ」



● バリューチェーン実行部門への品質教育

- ①全従業員向け品質教育：品質方針の理解徹底のためのWEB教育の実施
- ②マーケティング部、商品技術開発研究所への品質教育：商品設計に関連する法規や社内ルールを理解
- ③製造部、調達部、ロジスティクス部への品質教育：品質指導・監査員資格制度の導入
- ④グリコマニファクチャリングジャパンへの品質教育：内部監査員ライセンス制度の導入
- ⑤セールス本部への教育：商品取り扱い知識講座の開設

● 「失敗から学ぶ資料室」の常設

過去の失敗を繰り返さないために、常時資料室を開設して従業員が閲覧できるようにしています。

人事研修等にも活用しており、自己学習もできるように「失敗から学ぶ資料室WEB版」をイントラネットに掲載しています。



「失敗から学ぶ資料室」の様子



お客様満足のために

関連する重要課題 (マテリアリティ)

安全・安心な商品・サービスの提供

■ チャットボットを活用した販売店検索システムの導入

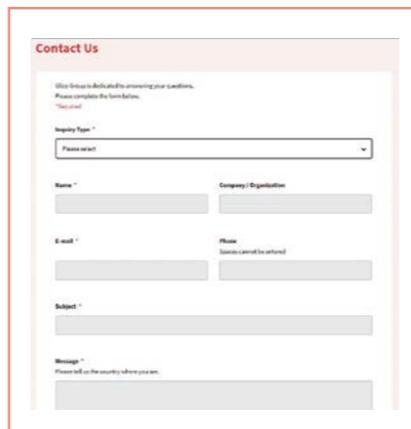
お客様からの商品に関するお問い合わせに対し、スピーディーに回答できるように、2020年よりチャットボットを活用した販売店検索システムを導入しました。営業時間外でもお客様自身が販売店舗を検索できるようにすることで、顧客満足度の向上を図るとともに、お客様センターの電話対応をWEBサイト上の検索にシフトさせることによる業務効率化にも繋がっています。



コーポレートサイトのお問い合わせページに販売店検索システムを導入

■ グローバルコンタクトフォームの作成

海外各国のお客様からの問い合わせにお応えするため、Glicoグループ共通のグローバルコンタクトフォームを作成しました。英語、または事業所所在国においては現地で使用されている主な言語を用いて対応することで、お客様に寄り添い迅速に対応できるようにしました。



グローバルコンタクトフォーム

■ 安全・安心に繋がる情報の掲載

お客様自身がいつでもWEBサイトから商品の栄養成分等の情報を取得できるよう、商品ページに栄養成分表示、原材料名等の情報掲載を順次拡大中です。安全・安心に繋がる情報を積極的に掲載し、利便性と顧客満足度の向上に努めています。



WEBサイトに商品の原材料名・栄養成分表示等を掲載

■ バランスのよい食生活の実現と健康づくりのための「栄養成分ナビゲーター」

WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」は、簡単な操作で、一般食品(2,191品目)の中から、知りたい栄養成分情報をリアルタイムで取り出すことができるシステムです。

1996年に開設後、知りたい食品の栄養成分情報を手軽に取り出すことができ、専門知識がなくともわかりやすく詳しい情報が得られると、消費者はもちろん栄養士の方々にもご利用いただいております。お客様のバランスのよい食生活の実現と健康づくりのために貢献しています。

※日本食品標準成分表2020年版(八訂)については、2021年度中に最新データに更新します。



WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」



ダイバーシティ&インクルージョン推進

関連する重要課題(マテリアリティ)
ダイバーシティ&インクルージョン

Glicoグループは、多様な人材が、一人ひとりが持つ個性や強みを生かして活躍できるよう、制度面や環境面、また各職場でのさまざまな取り組みを進めています。ダイバーシティ&インクルージョンの推進を通じて、イノベーションの創出を加速し、企業の成長に繋げていきます。

Co育てPROJECT

「Co育てPROJECT」は、「妊娠からはじまる1000日間」を子どものココロとカラダの基礎をつくる大切な時期と捉え、その時期の子育て課題の解決を目指すGlicoグループの取り組みです。商品やサービス、産・官・民との多岐にわたる連携を通じて、家族のコミュニケーションや育児協力を促し、良好な関係づくりを促進する取り組みとして展開しています。そして、社内でも社員の「Co育て」を支援する活動を行っています。



Co育て休暇

「Co育て休暇」は「社員のCo育て」を支援する取り組みの一つで、不妊治療や妊活、育児、子・孫の看護や検診、学校行事への参加のための有給休暇です。下図の4種類がありますが、このうち「Co育てMonth」は子どもの出生後6か月以内に1か月の休暇取得を必須とするものです。男性従業員の育児参画をさらに推進するとともに、対象者の休暇取得をきっかけにして、職場のメンバー全員が働き方についての意識と行動を見直し、生産性の向上とそれぞれのライフの充実を実現することを目指しています。

〈全社員が取得必須!「Co育て休暇」の仕組み〉



子育てアプリ「こぺ」をリニューアル、家族の子育てと心身の健康をサポート

子育てをするパートナー間において、すれ違いを生むさまざまな原因の解消を目的に、2019年2月より提供してきた子育てアプリ「こぺ」(無料)を、2020年12月にリニューアルし、家事や育児タスクを家族と共有できる「To Doボード」機能や医師監修の睡眠コンテンツ等を追加しました。

本サービスを通じて、妊娠からはじまる1000日間における、子どものココロとカラダの健やかな成長をサポートするとともに、家族みんなと協力して子育てを行う環境づくりを目指します。



iOS版



Android版

「イクメン企業アワード2020」で理解促進賞を受賞

江崎グリコは2020年11月、「Co育てPROJECT」を中心とする取り組みが、対外的にイクメンを応援する活動として評価され、厚生労働省が実施する「イクメン企業アワード2020」において理解促進賞を受賞しました。

「イクメン企業アワード」は、育児を積極的に行う男性＝「イクメン」を応援し、男性の育児休業取得を促進する「イクメンプロジェクト」の一環として、働きながら安心して子どもを産み育てることができる労働環境の整備推進を目的に実施されており、男性の育児と仕事の両立を積極的に促進する企業を表彰するものです。



IKUMEN AWARD 2020

男性従業員の育児休暇・Co育てMonth取得状況

2020年度 取得率
40名 100%



Co育てMonthを取得した男性従業員の様子



表彰式の様子



ダイバーシティ&インクルージョン推進の取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

働きやすい職場づくり

関連する重要課題 (マテリアリティ)
労働安全衛生

■ テレワークの推進

さまざまなイノベーションを創出するために、多様な人材が活躍できる組織風土づくりを進めています。江崎グリコでは、2015年に育児・介護従事者の支援を目的として、対象者を限定した在宅勤務制度を先行導入し、2018年には生産性の向上とワークライフバランスのさらなる改善による全社的なイノベーションを目的として、テレワーク対象者を正社員・一部契約社員に拡大し、働き方改革を加速させてきました。

2020年度の社内アンケートでは、テレワークで生産性が向上していると回答した社員は50%を超えました。テレワークで新たに創出された時間は、家庭と仕事の両立、自己啓発、趣味等、生活をより豊かにするために活用されており、95%の社員が今後も活用したいと回答しています。今後も多様な人材が活躍できる制度・風土づくりを進めていきます。

テレワーク実施状況 (江崎グリコ)

2020年度

80%



テレワークの様子

■ 令和2年度「テレワーク先駆者百選※ 総務大臣賞」を受賞

多様な人材が活躍できる組織風土づくりの一環として江崎グリコで進めてきた「テレワーク」を中心とするさまざまな取り組みが、新型コロナウイルスの感染拡大後のニューノーマル (新常态) における先駆的な取り組みとして高く評価され、総務省が主催する「テレワーク先駆者百選」において、「総務大臣賞」を受賞しました。

※テレワーク先駆者百選：総務省がテレワークの導入・活用を進めている企業・団体を「テレワーク先駆者」とし、その中でも十分な実績を持つ企業・団体を「テレワーク先駆者百選」として公表するもの。



● 評価いただいた点

- ①早い段階からの制度化、現在の高いテレワーク実施率
- ②育児・介護従事者や障がい者の就労支援、BCP対策としてのテレワークの有効活用



働きやすい職場づくりの取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

人権の尊重

関連する重要課題 (マテリアリティ)
人権尊重のマネジメント

■ 人権への取り組み

Glicoグループは、事業を展開する上で、役職員*のみならず全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であるという考えの下、これまでも「Glicoグループ行動規範」に基づき、人権を守る活動を行ってきました。その考えをさらに進め、2020年7月、グループ外の専門家からもアドバイスをいただきながら、グローバル企業としての責任を果たすべき指針として「Glicoグループ人権方針」を策定しました。本方針はグローバルスタンダードである2011年の国連人権理事会で承認された「ビジネスと人権に関する指導原則」に則したものです。これに準拠した人権尊重を進めるとともに、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆さまにも「Glicoグループ人権方針」への理解と支持を求めています。

*本書において「役職員」とは、Glicoグループの取締役、監査役、執行役員および従業員 (契約社員、派遣社員、パート・アルバイト社員を含む) を意味します。

「Glicoグループ人権方針」はこちらからご覧いただけます。



■ 人権に関する講演会を開催

国内のグループ会社の部門長以上を対象に、認定NPO法人国際協力NGOセンター・事務局長の若林秀樹氏によるオンライン講演会を開催しました。約80名が参加し、国内外の人権課題の最新動向や人権に取り組む重要性等について学びました。



オンラインで講演会を開催



人権の尊重の取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

サプライチェーンマネジメント

関連する重要課題 (マテリアリティ)

サプライチェーンの環境社会配慮

■ グローバルスタンダードに準拠した「Glicoグループ調達方針」の策定

Glicoグループは、2019年11月に国連グローバル・コンパクトに署名したことを受け、従来の「購買基本方針」をより社会・環境課題に取り組む内容に見直し、2020年12月、グローバルイニシアティブに準拠した新たな方針として「Glicoグループ調達方針」を策定しました。Glicoグループの調達活動においては、本方針を遵守し、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆さまにも理解と支持を求めています。



「Glicoグループ調達方針」はこちらからご覧いただけます。

■ 取引先へのガイドライン周知

2020年12月、Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」を策定するとともに、「お取引先様向け調達ガイドライン」を新たに策定しました。本ガイドラインの周知・徹底を図るとともに、WEBツールを活用した説明会実施等のコミュニケーションを通じて取引先とのパートナーシップを強化しています。



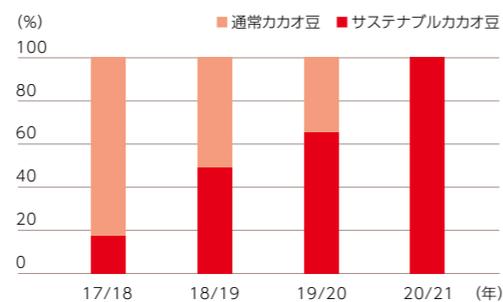
オンラインにて「お取引先説明会」を実施

■ ガーナ産カカオ豆の100%サステナブル化

安全・安心はもちろん、環境や人権にも配慮した調達の一環として、「サステナブルカカオ豆※」の調達を推進しています。2021年購入分より、江崎グリコが購入するガーナ産カカオ豆を全てサステナブルカカオ豆に切り替える予定です。

※サステナブルカカオ豆：購入ルートを通じて農家に対する支援を行っている地域から購入したカカオ豆。

ガーナ産カカオ豆 通常/サステナブル比率 (契約ベース、Mt)



■ ガーナ共和国への支援

チョコレート製品の主原料・カカオ豆の主要調達先であり、新型コロナウイルスで困窮するガーナ共和国において、就労機会提供と衛生改善支援を実施しました。

● 取り組み例

日本向けマスク製造委託による支援

江崎グリコは、株式会社DOYA (以下、DOYA社) が持つ現地での仕組みを通じ、日本向けのマスク1,000枚を発注しました。そのマスクを工場で製造してもらうことで、ガーナ都市部における就労機会を提供するとともに、DOYA社を通じてその収益の一部を認定NPO法人Doooooooooに寄付しました。



経済的困窮にさらされているガーナの都市部で就労機会を提供

支援物資の配布

経済的困窮により食べる物が不足し、マスク等の衛生用品が個人に行き届いていない等、新型コロナウイルスの被害が深刻な地域の一つであるガーナのAgbogbloshie (アグボグブロシー) 地区において、約1,000名分の支援物資を配布しました。また、カカオ豆の生産地域に対しては、衛生用品の物資提供とともに井戸造成による衛生状態の改善を支援しました。



支援物資配布の様子

医療用物資提供

同地区にある10カ所のヘルスセンターに医療用マスク (ガーナ当局認証品) 2,000枚、消毒液 (70%エタノール) 500本等の医療用物資を提供しました。



地区の各ヘルスセンターの代表者に配布



地域貢献

関連する重要課題 (マテリアリティ)

人々の健康への貢献

人財の育成

■ コロナ禍における地域貢献活動

● 雇用創出と飛沫防止パネル寄贈

Glicoグループ社員から募集した「コロナ禍の社会に貢献するイノベーション提案」の一つとして、Glicoグループの事業所周辺地域の方々の新型コロナウイルス感染防止対策と、新型コロナウイルスの影響で失業された方への雇用創出の観点から、地域の方（オフィス・保育所・学校等）向けに自社工場飛沫防止パネルを製作して寄贈する活動を開始しました。

神戸工場周辺で就業を希望される方を新たに採用させていただき、2020年11月より活動を開始しました。1,200枚のパネルを製作し、Glicoグループの事業所周辺の関係先に寄贈する予定です。



飛沫防止パネルを製作し、周辺地域のオフィス・保育所・学校等に寄贈

● WEBを使用した高専インターンシップ（神戸工場）

2020年8月24日～28日の5日間、神戸工場にて、高専生向けインターンシップを実施しました。例年であれば製造現場で見学や実習を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部の方の工場への立ち入りを禁止しており、実習の実施自体が難しい状況でした。しかし、コロナ禍でもモノづくりの現場を見て、ご自身の就業観醸成に繋げていただきたいとの思いから、WEBツールを活用し、ご自宅にしながら製造現場の見学が可能なインターンシップを実現しました。



ホロレンズを活用し、製造現場の様子を会議室に中継しながら解説

● 健康知識を楽しく学べるオンラインセミナーを開催

会員サイト「with Glico」では、お客様とともにいつまでもアクティブかつ健康でいられるよう、「運動」「栄養」「休息」についての正しい健康知識を身に付け、健やかな自分を開発するセミナー「ウェルネスキャンパス」をオンラインにて開催しています。

2020年6月のオープン以降、「ロカボ®」「腸内環境」「抗酸化」「歩行習慣」をテーマとしたセミナーを開催。延べ約400名の会員様に参加いただき、消費者の皆さまの健康への貢献となる活動を実施しています。

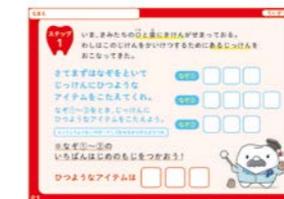
セミナー受講後のアンケートでは、学んだ内容をすぐにも生活に取り入れたい方が9割にのぼっており、「とても勉強になる」「セミナー受講をきっかけに日々生活改善に心がけたい」というお声をいただいています。

■ 「歯の大切さ」を学ぶオンライン出前授業を実施

江崎グリコは、お口の健康に関わるさまざまな問題を重要な社会課題として捉え、食育の一環として、自社で開発した「デンテ博士の秘密の実験室」という教育キットを活用したオンライン出前授業を企画・実施しています。新型コロナウイルスの影響で歯科受診を控える方が増えており、むし歯の増加が懸念されていることを背景に、2020年10月には、沖縄県那覇市の放課後児童クラブに通う子どもたちを対象に本企画を実施。小学校低学年の子どもたち約30名がオンラインで参加し、講師役を務めた江崎グリコ社員による解説を通じて「お口の健康」や「噛むことの大切さ」について学び、理解を深めました。



ゲーム感覚で楽しく学べる教育キット



with Glico会員登録はこちらから行えます。



きょうはこれをおぼえてね！おうちのひとにもおしえてあげよう！

おうちのけんこうは
★よく噛むこと
★しっかり、はをみがくこと
がたいせつだとわかりましたね。

かむ ことがだいじだから、ガムをかむことはおうちのけんこうにとっていいんだよ。おうちのけんこうのために、ガムをかんだり、しよじをよくかんでたべてみてね。

※さいごに※
かんそうをかみにかいてくださいね！

オンライン出前授業の様子



事業活動の基盤

持続的成長に向けた経営基盤の強化に取り組みます。

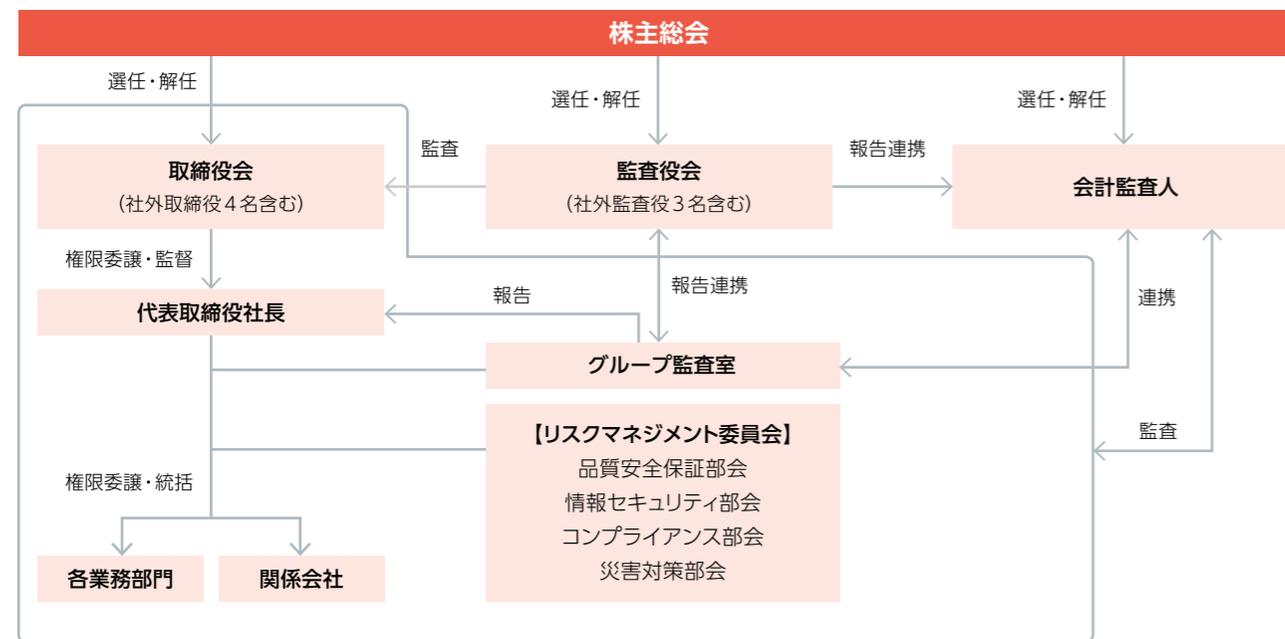
コーポレート・ガバナンス

関連する重要課題 (マテリアリティ)
コーポレート・ガバナンス

■ コーポレート・ガバナンス体制

最高意思決定機関である株主総会の下、重要な業務執行に関する意思決定および各部門 (関係会社を含む) による業務執行の監督を行う取締役会、および取締役会の職務執行を監視・監督する監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。本体制により、取締役会における経営の意思決定機能、および業務執行を管理・監督する機能が充実するとともに、経営効率の向上、的確かつ戦略的な経営判断が可能となっています。

〈コーポレート・ガバナンス体制図〉



コーポレート・ガバナンスの取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

コンプライアンス

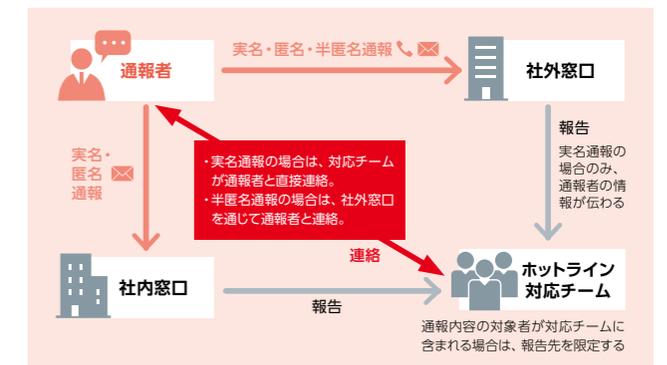
関連する重要課題 (マテリアリティ)
企業倫理の実践と腐敗防止

Glicoグループでは、ビジネス上の競争力の維持・強化に留まらず、企業としてのサステナビリティ向上を通じて社会を支えていくために、法令や社内ルール、倫理や道徳といった社会規範へのコンプライアンスの実現に向け、以下をはじめとする各種取り組みを実施しています。

■ Glicoコンプライアンスホットライン

Glicoグループの役職員一人ひとりによる法令違反や社内規程への違反行為の未然防止と早期発見を目的として「Glicoコンプライアンスホットライン」を開設しています。日本のみならず、中国、米国、ASEAN各国をはじめとする国内外のGlicoグループにおける全ての役職員が母国語にて利用可能です。また、通報に際しては実名通報・匿名通報・半匿名通報の3通りから通報者が選択することができ、通報内容への調査・対応は社内中立的な調査機関が行うため、通報者は、自身が不利益を被る危険性を懸念することなく会社へ通報することができます。

〈処理フロー〉



■ 贈収賄防止活動

日本のみならず、中国、米国、ASEAN各国をはじめとする国内外のGlicoグループの事業拠点が存在する各国地域における贈収賄防止規程の導入および役職員への教育を2019年度から開始しており、2021年度中に完了予定です。

■ 個人情報保護関連活動

昨今の各国地域における個人情報保護法令の厳格化に対応すべく、国内外のGlicoグループ企業を対象としたプライバシーポリシーの再整備を2019年度から開始しており、2021年度中に完了予定です。



コンプライアンスの取り組みの詳細は、こちらからご覧いただけます。

会社概要等

事業所数



本社・オフィス・統括支店

10 拠点 (2020年12月現在)



工場

14 工場 (2020年12月現在)

関係会社



国内

7 社 (2020年12月現在)



海外

18 社 (2020年12月現在)

CSRの考え方／推進体制

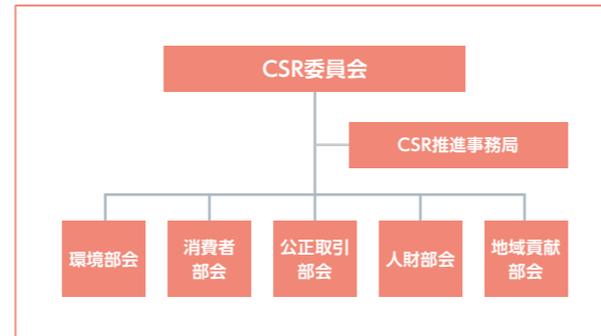
GlicoグループのCSRの考え方

企業理念「おいしさと健康」を実現し、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として活動しています。



CSR推進体制

Glicoグループでは、CSRの推進を重要な経営課題と捉え、江崎グリコの代表取締役を最高責任者とするCSR委員会を設置し、グループ全体でCSRを推進する体制を敷いています。



事業紹介

菓子、冷菓、飲料、加工食品、牛乳・乳製品、食品原料等の事業を行っています。

菓子・食品部門



冷菓部門



乳業部門



食品原料部門



海外部門



その他 (健康事業含む)



企業情報の詳細は、こちらからご覧いただけます。



関連団体への参画



江崎グリコは、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。

江崎グリコ株式会社

www.glico.com/jp

詳細版 (WEBサイト)

GlicoグループのCSRの取り組みを、
網羅的に報告しています。

